

## 第4章 視覚障害

## 第1節 各教科の実践事例1 高等部普通科 地理

## 1 年間指導計画

月	単元名	授業時数	授業目標	評価
4月	・地図と地理的 技能	9	・地球儀や世界地図を用いて、6大陸3大洋の位置関係と、地球儀や地図等の使用目的を理解する。	
5月	・地形	15	・大地形、小地形それぞれの特徴、分布や形成要因について基礎的知識や概念を知り地形と生活、自然災害との関係を考察する。	
6月	・気候	17	・地球規模でみた気温・降水量・大気大循環、海洋や水の循環についてのそれぞれの特色や形成要因を考察する。	
7月	・気候 ・時事問題	11	・長期的に起こる気候変動と、異常気象について理解する。 ・新聞やテレビのニュースから情報を収集し、自分の意見を伝える方法を身に付ける。	
9月	・ケッペンの気 候区分	13	・世界の気候帯を取り上げ、その分布や形成要因、気候と人々との生活との関連について考察する。	
10月	・ケッペンの気 候区分 ・環境問題	13	・地球温暖化などの環境問題を取り上げ、それらを一覧しながら自然環境の諸問題に関する分布や要因を考察し、解決に向けた国際協力の動きを理解する。	
11月	・資源と産業	13	・世界の農業・水産業・工業・資源・エネルギーなどを取り上げ、それぞれの特色や分布、形成要因について考察する。	
12月	・人口と村落・都 市	13	・世界の人口分布、人口増加・人口構成に関する動向を取り上げて、形成要因に関して考察し、世界の人口増加地域と減少地域の人口問題を比較しながら考察する。	
1月	・現代世界の諸 地域	13	・現代世界が自然、政治、経済、文化などの指標によって様々な地域に区分できることを理解し、多様な区分から現代世界の特色を理解する。	
2月	・現代世界の諸地 域	13	・上記	
3月	・現代世界と日本	13	・グローバル化に基づく、日本の自然・産業構造・人口問題など日本が抱える地理的な課題を自ら発見し、よりよい社会の実現のためにその課題を多面的・多角的に考察・探求する。	

## 2 本指導案

高等部普通科 第1学年 地理B 学習指導案

日 時 ○○年○月○○日(○)  
第○校時 ○○～○○  
場 所 ○○教室  
指導者 ○○ ○○

### 1 単元名

第1章 自然環境2節 気候(1) 気候のしくみ

### 2 単元設定の理由

#### (1) 生徒の実態

本学習グループは普通科高等部1年生の全盲生と弱視生で構成されている。どの生徒も「社会科が好き」と答えることもあって、教員の発問に対して、積極的に発言をしたり、時事問題に対して生徒同士で意見を出し合ったりして見解を深めたりすることができている。

しかし、中学校社会科の地理的分野の学習が定着しておらず、また、視覚障害の特性上、地図や資料の読み取りを苦手としている生徒が多い。そのため、地理的な見方や考え方をを用いて、社会の在り方や、社会的事象の意味や相互の関連を考察する力、社会に見られる課題を把握して、それらの解決に向けて構想する力、そして考察したことや構想したことを説明する力を身に付けていくことが共通の課題である。また、全盲生と弱視生がともに学習するため、触察などの体験活動では、それぞれの理解するスピードに応じて、声かけや教材の提示などを十分に配慮する必要がある。

#### (2) 単元観

この単元では、「(1)様々な地図と地理的技能」で学習した成果を踏まえて学習の内容と方法を工夫し、世界規模でみた気温、降水量、大気大循環、海洋や水の循環を取り上げ、それぞれの特色や形成要因を系統地理的に考察・理解できることがねらいである。「系統地理的考察」とは、取り上げる事象を決める段階、分布図などを読み取る段階、分布の特色や規則性などを分析する段階、そして事象相互の関係を考察する四つの段階を経て、取り上げた事象の現代世界における多様性や地域性を明らかにすることである。その中でも、「気候」を扱うこの単元では、事象が「なぜそこにあるのか」を考察する三つめの段階・過程を重視して、事象の成因や原理の追究に踏みこんで進めていく必要がある。

#### (3) 指導観

指導に当たっては、気候の特徴と人間生活との関わりについて考察する基礎知識の一つとして、気候要素や気候因子の特徴を理解できるようにしたい。それらを踏まえて後の授業でケッペンの気候区分・各気候の特徴や分布、そこで営まれる人々の生活について考察するようしていきたい。

そのためには、雨温図や大気の大循環の図を触察して読み取る技能を高めたり、よりイメージを膨らませる言葉かけや資料などを準備したりする必要がある。授業では、学習内容が身近に感じられるように事例や発問等を工夫し、分かりやすい授業の展開となるように丁寧に指導する。また、自分が考察したことを周囲と話し合う協調学習の場面も設定し、社会的思考力・判断力・表現力を育てていきたい。

本時においては、大気大循環・地球上に吹く風(恒常風・季節風)について学習する。生徒自身が「分かる」→「できる」→「楽しい」という実感がもてるよう、触察などの体験活動を通して、地球上の高圧帯・低圧帯の分布とそのことからくる風の方向を捉えられるようにしたい。(つかむ・見直す)さらに地球の自転という動きも加わって、地球上に吹く恒常風の向きに気付けるようにしたい。

(追究する)大陸の西と東の雨温図を比較することで偏西風の影響による大陸東西の気候の差異の理解を深められるようにしたい。(使ってみる・振り返る)

学習指導要領に示された本単元に関わる目標、内容は以下のとおりである。

(2) 現代世界の系統地理的考察

世界の自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教に関する諸事象の空間的な規則性、傾向性やそれらの要因などを系統地理的に考察するとともに、現代社会の諸問題について地球的視野から理解する。

ア 自然環境

世界の地形、気候、植生などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や人間生活との関わりなどについて考察するとともに、現代社会の環境問題を大観する。

3 生徒の実態

障害の状況と実態

生徒	障害の状況	実態 ◎合理的配慮の実施内容
A	弱視生 視力 右0.1 左0.1 単眼鏡 ルーペ使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時は状況に応じて単眼鏡やルーペを使用して板書や読図をしている。</li> <li>・自分の考えを順序立てての論述することはできつつあるが、グループでの発表の場では、緊張もあって、他者の意見をまとめたり、相手に分かるように伝えたりすることに苦労している。また、他の生徒に対して発問した際に生徒が考えているのにも関わらず、勝手に答えてしまうことがある。</li> </ul> <p>◎発言の仕方、合意の得方などを本人が分かるように肯定的に伝え、みんなて話し合って決める際に必要なスキルの獲得・定着を図る必要がある。</p>
B	全盲生 視力 右0 左0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字を使用しており、ノートは板書の読み上げをとっている。</li> <li>・資料や教材を触察して読み取る経験が少ないということもあり、手指は動かしているが、自分が何をしているかが分からなくなってしまう時がある。</li> </ul> <p>◎触察などの体験学習をする際に、自分がどの位置を触っているのか混乱しないよう、触り始める基準(起点)と全体の範囲を提示し、その基準や起点から触るように指導する必要がある。</p>
C	弱視生 視力 右0.15 左0.1 単眼鏡 ルーペ使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時は状況に応じて単眼鏡やルーペを使用して板書や読図をしている。</li> <li>・漢字の書き誤りが見られるため、ノートをとる様子を確認する必要がある。</li> <li>・発問に対して積極的に発言するが、事象の成因の考察が苦手であるため、自分の考えを順序立てて論理的に表現することに苦労している。</li> </ul> <p>◎理解しにくい事柄や概念について、「何でそうなるのか」という理由をできるだけ分かりやすく、具体的に説明する必要がある。</p>
D	全盲生 視力 右0 左0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字を使用しており、ノートは板書の読み上げをとっている。</li> <li>・目で見えていた経験もあるので、他の全盲生よりも資料や教材の全体像と必要な情報をつかむのが早く、触察が上手である。</li> <li>・地理を苦手としていることもあって、事象の成因や原理を考察することに苦労している。</li> </ul> <p>◎理解しにくい事柄や概念について、「何でそうなるのか」という理由をできるだけ分かりやすく、具体的に説明する必要がある。</p>

#### 4 単元目標

##### 【知識及び技能】

- ・世界の気候を地域的な差異や類似性、分布やまとまりなどに着目して捉え、世界の自然環境に関する多様性や地域性を大観し気温・降水・大気大循環・風について基本的な事柄を理解することができる。
- ・雨温図や大気大循環の模式図を読み取り、分析などを通して、気候について必要な情報を選択して活用することができる。

##### 【思考力、判断力、表現力等】

- ・世界の気候分布の状況から、様々な自然環境について、空間的な規則性、傾向性を見出し、それらを系統地理的に捉える視点や方法を考察し、相手に分かるように伝えることができる。

##### 【学びに向かう力、人間性等】

- ・世界の気候環境を、主体的に日常生活と結び付けて考えることができる。
- ・異常気象に関する諸問題を、主体的に捉え、その解決に向けて多面的・多角的に考察・探求することができる。

#### 5 単元の指導計画（本時6／11）

	学習活動	授業時数
1	・気候を構成する要素とそれに影響を与える要因を考察し、気候要素と気候因子について理解する。	1
2	(1) 経度と緯度 ・地球儀を触って赤道と本初子午線の位置、自転軸が傾いていることを理解する。緯度の違いによって、気温が変動することを理解する。	1
3	(2) 気温 ・雨温図の読み方を学習する。雨温図を読図し気温の年較差と日較差について理解する。気温が変動する気温の遞減率について理解する。	2
4	(3) 風と大気大循環 ・気圧と気流の関係を理解する。大気の大循環の模式図を用いて、低緯度・中緯度・高緯度の循環を考察する。貿易風・偏西風・極東風の形成についても理解する。熱帯低気圧と風の関係、局地風について理解し、地域ごとに呼び名が違うことを知る。	3 本時2／3
5	(4) 降水量 ・雨温図を用いて、世界の降水量の分布について、多い地域と少ない地域に着目し、その違いの原因を考察する。	1
6	(5) 海流 ・大まかな世界の海流の動きを確認し、海流も気候因子の一つであることを理解する。模式図を用いて、日本の周りを流れる海流について理解する。	1
7	(6) 気候変動と異常気象 ・異常気象の時事問題を用いて協調学習を行い、その要因と地球環境問題の望ましい解決策をグループで考察する。	2

## 6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善の視点

地理Bの学習では、地図や資料を読みこなし、そこから得られる情報を基に多面的・多角的に思考することは不可欠である。このことは視覚に障害のある生徒においても同様である。全盲生が地図や資料を読むためには、能動的に触り、触った部分をつなげ合わせて全体をイメージする力やそれらのイメージを基に図を理解する力が求められる。弱視生にとっても読図が困難であることは同様で、市販の地図帳や拡大教科書の資料を読図するとなると、情報が多すぎたり、色分けが複雑であったりして見えづらいという問題がある。このような学習面での視覚障害上の障壁をなくすためにも、全盲生は「知る世界」から「分かる世界」へ踏み出す「触察」の場面が欠かせず、弱視生は保有する視力を活用して読図しようとする「主体性」を引き出す必要がある。そのためには、生徒が「分かる」ための視覚や感覚を補う具体物教材・教具の提示を工夫することが重要であると考え。また、その教材を扱う際に、協調学習の時間を設け、教材を触って感じたことを生徒同士で話し合う「対話的な学び」につなげる。わかったことを言語化し、言葉で表現することにより情報が整理され、確かなイメージとなり記憶される。協働を通じて、自分にはない他者の考えを受け入れることや自分の知識や経験を活用して他者に考えを伝えることで、「深い学び」となると考える。

## 7 本時の学習

### (1) 共通目標

#### 【知識及び技能】—【a】

- ・大気大循環、風について基本的な事柄を理解し知識を身に付けている。
- ・雨温図から、パリと北海道の気候を読み取ることができる。

#### 【思考力、判断力、表現力等】—【b】

- ・風の影響により気候が変動することを考察できる。
- ・大陸東西の気候の違いを偏西風の影響から考察できる。
- ・自分が考察したことを、相手に分かりやすく伝えることができる。

#### 【学びに向かう力、人間性等】—【c】

- ・触察などの体験活動の際に主体的に手指を動かし、活動のねらいを捉えることができる。

### (2) 展開

配時	学習内容 (生徒の活動)	○教員の指導 ※指導の意図 (ねらい)	【評価】
導入 8分 (2)	1 挨拶をする。 2 前時の復習をする。	○質問を適宜行いながら、前時に学習した内容(大気の大循環)を確認する。	【a】大気大循環について基本的な事柄を理解し知識を身に付けている。 【b】風の影響により気候が変動することを考察し、相手に分かりやすく伝えることができる。
(1)	3 協調学習をする。 ・「風が吹くメリットとデメリット」について考える。	○協調学習を行うため、席を移動して班ごとのグループを作る。	
(2)	・1班(生徒A・C)と2班(生徒B・D)に分かれて、自分の考えを伝え、話し合い、班での意見をまとめる。	○机間巡視をし、各班が話し合いを進めることができているか確認する。	

(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの班の代表者が発表する。</li> </ul>	<p>○風が吹くことによって、気候が大きく変動することが理解できるようにする。</p> <p>※風が吹くことにより、気候がどのように変動するのか疑問をもてるようにするため。</p>	
展開 34分 (10)	<p>4 北海道とパリの雨温図を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>弱視の生徒には、2つの雨温図を読むして気づいたことをプリントに書く。</li> </ul>	<p>○2つの雨温図を配布し、読図させる。弱視の生徒には読図プリントも配布する。</p> <p>○机間巡視をしながら、雨温図のどこに着目すればよいのか伝える。</p> <p>*生徒には、読図した雨温図がどこの都市のものを表しているのかを考察できるようにするため、パリと北海道であることは伝えない。</p>	<p>【a】雨温図から、パリと北海道の気候を読み取ることができる。</p>
(2)	<p>5 立体の世界地図を触って、パリと北海道の位置を確かめる。</p>	<p>○立体の世界地図を配布して、パリと北海道の位置を確かめるようにする。</p> <p>*ほぼ同緯度の位置に2つの都市があるのに、気温と降水量に違いがあることに疑問をもてるようにするため。</p> <p>○発問「ほぼ同緯度にパリと北海道は位置しているのに、なぜ気温と降水量に差があるのか」</p>	<p>【c】触察などの体験活動の際に意欲的に手指を動かすことができる。</p>
(3)	<p>6 恒常風を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>班のメンバー同士で高圧帯か低圧帯を決めて、うちわをあおいで風を吹かせる。</li> </ul>	<p>○うちわを配布し、班のメンバー同士で高圧帯から低圧帯に風が吹くことを復習できるようにする。</p>	<p>【a】風について基本的な事柄を理解し知識を身に付けている。</p>
(5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>大気の大循環の模式図を触って、地球のどの位置に貿易風、偏西風、極東風が吹いているかを確認する。</li> </ul>	<p>○大気の大循環の模式図を触らせて、貿易風、偏西風、極東風がどういった風なのかを説明する。</p>	<p>【c】触察などの体験活動の際に意欲的に手指を動かすことができる。</p>
(10)	<p>7 地球の自転(コリオリの力)により風が曲がって吹くことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>模式図の貿易風・偏西風・極東風の矢印の方向を考察する。</li> </ul>	<p>○発問「自分の体に風が当たるときに、どのように当たるのか」</p> <p>*地球の自転(コリオリの力)によって、風が曲がって吹いていることに気づけるようにするため。</p> <p>○模式図の風の向きの方向を正しい向きに変えるよう伝える。</p>	<p>【c】貿易風・偏西風・極東風の風の吹く方向を理解し、矢印を動かすことができる。</p>
(2)	<p>8 立体の世界地図を用いて、パリと北海道にどのように偏西風が吹いているか考察する。</p>	<p>○立体の世界地図を配布する。</p> <p>○パリが北海道に比べて冬が暖かく、降水量が少ないのは偏西風の影響であることを理解できるようにする。</p>	<p>【c】触察などの体験活動の際に意欲的に手指を動かすことができる。</p>

(2)	9 中緯度から高緯度部分において大陸西側と東側では偏西風により気候が異なることを理解する。	○中緯度から高緯度部分において、偏西風により、大陸西側は海洋の影響を受け、気温が安定するため、夏季は涼しく、冬季は比較的暖くなる一方で、東側では夏季は暑く、冬季は寒くなり、気温の年較差が大きくなることを確認できるようにする。	【a】風について基本的な事柄を理解し知識を身に付けている。
まとめ 8分	10 本時のまとめをする。 ・ノートをとる。 11 次回の予告をする。 12 挨拶をする。	○板書を行うため、自分の席に戻るようにする。 ○質問を適宜行いながら、プリントの空欄を埋めるようにする。 ○次回、季節風について学習することを伝える。 ○挨拶をする。	【a】風について基本的な事柄を理解し知識を身に付けている。

## 8 本時の評価

### (1) 生徒の学習評価

- ・大気大循環、風について基本的な事柄を理解し、それを活用して雨温図から、パリと北海道の気候を読み取ることができるようになったかを評価する。(知識・技能)
- ・風の影響により気候が変動することを自分なりに考察し、そのことを相手にわかりやすく伝えることができていたかを評価する。(思考・判断・表現)
- ・視覚や触覚など、保有する感覚を活用して、主体的に資料や雨温図を読み取ることができていたかを評価する。(主体的に学習に取り組む態度)

### (2) 教師の授業評価

#### ア 授業構成について

- ・生徒の主体的な学びに向け、触察の手順に見通しがもてるようにするための視覚的支援や言葉がけを工夫できたか、生徒の力を引き出すために一人ひとりの実態に基づいて、個に応じた指導、支援に取り組むことができたか。(主体的な学び)
- ・教材や教具の活用を通じて、生徒同士で話し合う場面を設定できたか。(対話的な学び)
- ・これまでの単元の学習で得られた自分の知識や経験を活用して他者に考えを伝えることや、自分にはない他者の考えを受け入れる場面が見られたか。(深い学び)

#### イ 教師による評価について

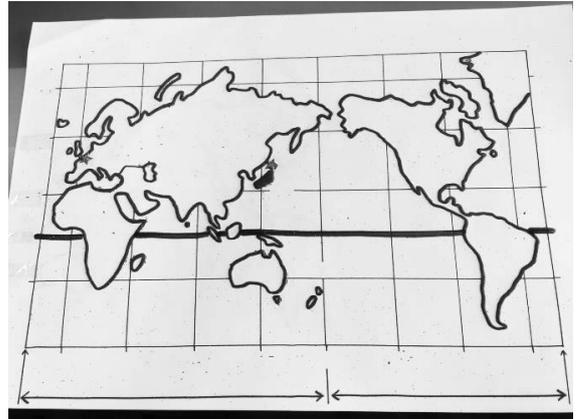
- ・自作の雨温図が授業のねらいに合った生徒にとっての「分かる教材」となっていたか。(主体的な学び)
- ・協調学習の中で、どの生徒も発言がしやすいように発問や声かけにおいて工夫できていたか。(対話的な学び)
- ・生徒が主体的に地図や資料を読み取れるような指導や支援ができていたか。これまでの学習で学んだことを主体的に日常生活と結び付けて考えられる問いかけをすることができていたか。(深い学び)

## 9 参考資料

全盲生と弱視生が触って分かるような凹凸がある自作教材。弱視生には、配色の工夫や情報量を精選し見やすくなっている。

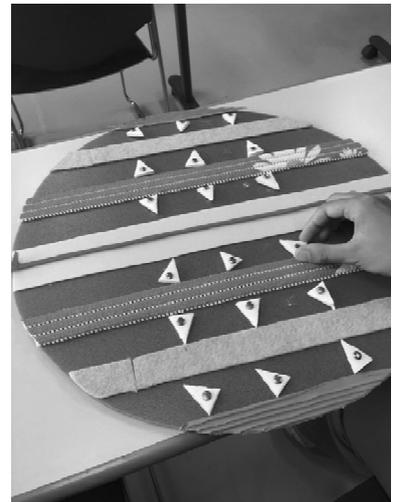
### ①世界地図

立体コピー機で作成。黒くなっている線は立体的になり、大陸の形が触って分かる。北海道とパリに膨らんだ立体的なシールを貼り、2つの都市がほとんど同緯度の位置にあることが触って分かる。



### ②大気の大循環の模式図

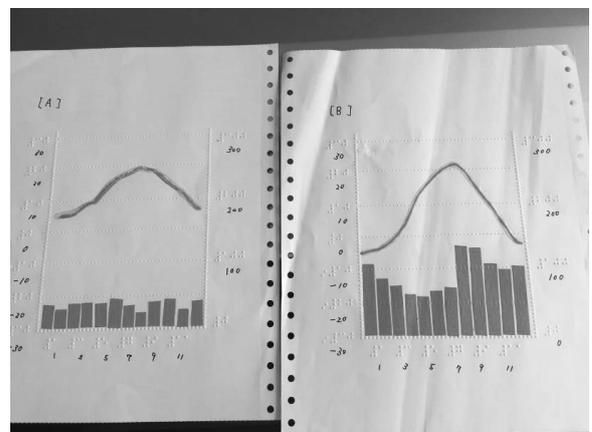
発泡スチロール板、厚紙、布等で気流の流れが触って分かる。風の向きを自分で動かすことができる。大気等も見やすい色に配色し、基準となる赤道は赤い紐を使用して特に見やすくなっている。



### ③雨温図

棒グラフはマスキングテープ、折れ線グラフは浮かび上がるペンとボンドを使用し、触ってわかる。折れ線グラフ、棒グラフは見やすいように配色を変えている。

縦軸横軸の数字は点字と墨字で書いてある。



### 3 地図の学習

#### (1) 地図の工夫や見方

##### ア 地図活用における困難

視覚障害のある児童生徒にとって、社会科の教材・教具は学習をする上でとりわけ重要な意味をもっている。

教科書以外に用いられる副教材では、視覚的にデザインされていたり、データが多すぎて全体像の理解や必要な部分の把握が困難だったり、内容の理解に時間がかかる。見ても触っても分からない地図帳や地球儀、写真、資料等が多い。そのことで社会科への苦手意識が強い児童生徒も少なくない。

特に、最近の社会科の教科書はビジュアル化され、内容をそのまま点訳しても視覚に障害のある児童生徒が読んで理解するには、困難が多い。教科書では、本文に加え、写真・キャラクターの会話などの吹き出し・図・表・グラフ・絵・地図・系図・関連資料など様々なパーツが散りばめられている。見えにくい児童生徒にとっても背景色や写真などがノイズになっており、どこを見ればよいのかが分からなくなっている。見えにくい児童生徒の場合、見るものに極端に眼を近づけてなぞるようにして見なければならぬために、地図全体を捉えながら探すべき記号や地域の位置関係を把握して読み取ることは非常に困難で時間のかかる作業となる。読み取るためには、多くの時間を必要とすることを理解しておかなければならない。

##### イ 見やすくわかりやすい地図の工夫や配慮

見えにくい児童生徒といっても、見え方は様々である。見えにくいからといって単に地図を拡大すればいいというわけではない。最も重要なことは、情報量を精選してシンプルな地図にすることである。例えば、河川と山脈のみを示した地図、りんご作りの盛んな地域のみを示した地図などである。このように、その単元を学習するうえで必要となる要素、地図を読み取るうえで欠かせない重要な基準を精選して載せる。授業で活用している地球儀や地図を中心に紹介したい。また、現在市販されているパズル型の日本地図や、世界地図も小学生段階から楽しみながら触り、県や国の位置を知る基本を学ぶ必要がある。

<触る地球儀>



色が大陸別に分かれており、点字・墨字で国名が書いてある。国境、緯線、経線、赤道は触って分かるように凸線で表している。全盲、弱視の児童生徒ともに分かりやすい。

<触る地球儀・地形>



山脈、川、海が分かるように立体的である。地形を捉えるには分かりやすい。砂漠のザラザラとした素材を使用し、触察で分かるようになっている。

< 地形が分かる触る地球儀（ドイツ製） >



30度ごとの緯線・経線、南北回帰線、約100の主要都市が表示されている。最も標高の高い部分で12mmという、ダイナミックな地形重視型の地球儀。

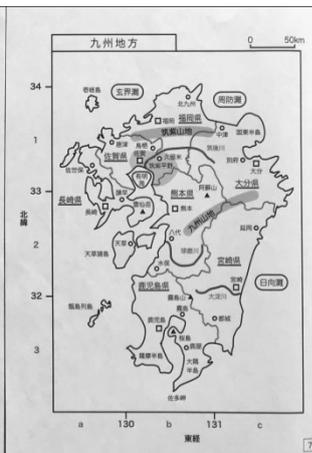
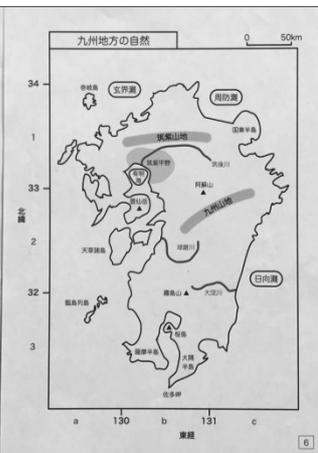
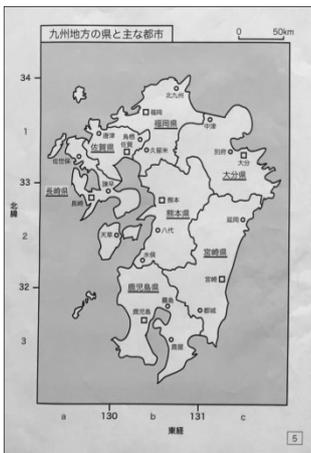
< 触る大陸別の地球儀（イギリス製） >



大陸ごとのパーツが取れるようになっている。大陸の形と位置が分かりやすい。

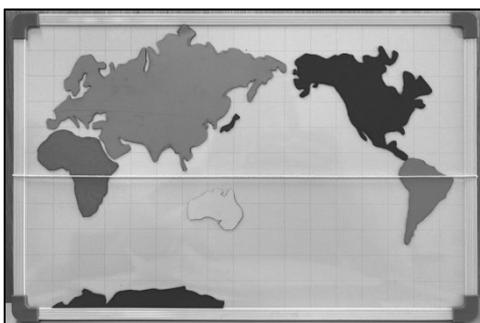
< 弱視地図（日本視覚障害社会科教育研究会） >

日本地図編では、8地方に加え日本の領域や南西諸島などの地図も収録されている。各地方では「地方の県と主な都市」、「地方の自然」それらを1枚に合わせた地図の3枚セットになっている。地図として必要な要素を重視しつつ、見えにくい児童生徒にとって使いやすいように作成されている。



- 【地図の読み取り】**
- ①地図のタイトルを確認する。
  - ②地図の外枠と枠外の情報を確認する。
  - ③地図中の基準点を決める。
  - ④目的地を決め、読み取る。

< 6大陸と3大洋（自作教材） >



ホワイトボードにマグネットシートで作成した6大陸を貼った教材。赤道はたこ糸であらわした。大陸別に色をかえ、見えにくい児童生徒に分かりやすくしている。マグネットシートのため児童生徒自身で貼り大陸の位置関係を学習したり、ホワイトボードに大陸名や大洋名など必要な情報を書き込んだりできる。

5 備考

教室内配置図 座席配置図 作業用道具配置図等

## 第2節 国語科の指導（点字指導）の実践事例2 小学部（一般学級）

## 1 年間指導計画

月	授業名	授業 時数	授業目標	評価
4月	「点字をたどろう」	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>点字を触ろうとする。</li> <li>両手指で正しく行をたどることができる。</li> <li>行途中の点字の変化に気づくことができる。</li> </ul>	
5月	「点字を読もう」	50	<ul style="list-style-type: none"> <li>両手指で正しく点字をたどることができる。</li> <li>清音の点字を読むことができる。</li> <li>新しい点字を覚えようとする。</li> </ul>	
6月				
7月				
9月	「点字を読もう、書こう」	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>長音、促音、濁音、半濁音の点字を読むことができる。</li> <li>点字タイプライターを楽しく使うことができる。</li> <li>点字の構成を理解し、既習の点字を書こうとする。</li> </ul>	
10月	「点字を読もう、書こう」	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>拗音、拗濁音、拗半濁音の点字を読める。</li> <li>点字タイプライターを正しく使うことができる。</li> <li>点字の構成を理解し、既習の点字を書こうとする。</li> </ul>	
11月	「点字で文章を読もう、書こう」(国語の教科書指導と並行して)		<ul style="list-style-type: none"> <li>点字で文章を読もうとする。</li> <li>数符、句読点等の記号を覚える。</li> <li>既習の点字で単語や文章を書くことができる。</li> </ul>	
12月				
1月				
2月				
3月				

※国語の時間を中心に指導する。必要に応じて自立活動の時間も活用する。

※清音を読めるようになった2学期あたりから国語での点字指導の時間は徐々に減らし、教科書指導を増やしていく。

## 2 本指導案

### 小学部 1年 1組 国語科 学習指導案

日 時 令和〇〇年〇〇月〇〇日 (〇)  
第〇校時 〇〇 : 〇〇 ~ 〇〇 : 〇〇  
場所 〇〇〇〇  
指導者 〇〇 〇〇

#### 1 単元名 「点字を読もう」

#### 2 単元設定の理由

##### (1) 児童観

本児は4月から小学部に入学した。視力は右光覚、左手動弁である。朝の準備や着替え、排泄等は声かけの支援で行うことができる。教室内は、壁を伝うことやランドマーク（視覚障害児が移動の時に目印とするもの）を活用し、一人で移動できる。情緒は安定していて、意欲的に学習に取り組むことができる。触察も積極的に行うことが多く、触覚により図形弁別ができる。自分の興味や、昨日の出来事などを具体的に自分の言葉で話することができる。文字の大きさを120ポイントにして平仮名で読むことができる。

##### (2) 単元観

道村静江著「点字導入学習プログラム」を中心に学習を進める。文部科学省の点字学習の方法と同じように、点字の6点を左半マスと右半マスのそれぞれ構成を合わせ、1つの点字として捉える方法をとっている。このプログラムでは、半マスだけで構成されている「アイニワナ」を習得した後は、自分でどのくらい読めるようになったかが分かりやすいように、点字を50音順で示している。また、縦半マスずつを単純に合わせるのではなく、それぞれの構成を捉えながら、段々とマス間を狭くし、最終的に1つの点字として読めるようにする。段々にマス間が狭くなることで、正式な1つの点字になった際に形が捉えやすいようになっており、指の上下運動という悪い癖が付きにくく、横移動で読むことが定着できる。

点字は、教員の補助で点字をたどる。点字の正しいたどり方を知り、適切な読み方を習得することや構成の違いを主体的に捉えられるようにしたい。

##### (3) 指導観

本児は墨字での平仮名は、ほぼ理解しているが、ポイント数の大きなものを一文字一文字時間をかけて読むため、生活や学習で実用的に活用することに苦労している。学習を効率的に進める手段としては、点字が適している。本児は小学部に入学し、学校生活での様々なことに興味があり、点字の読み書きができるようになりたいという思いも強い。点字の行たどりなどの動作も習得できている。意欲、姿勢、物を触って理解する力など、点字学習を始めるレディネスはできている。道村静江著の「点字導入学習プログラム」を使用し、自分で学習到達度が分かりやすく、意欲を持続しながら指導していくことができる。

#### 3 児童の実態

氏名	単元に関する実態
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習の際、正しい姿勢をすることができる。</li><li>・指を揃え、水平方向に行をたどることができる。</li><li>・平仮名で50音を読むことができる。</li><li>・話すことが好きで、身の回りであった出来事を話す。また、人の話を聞き、質問することができる。</li><li>・ロッカーや机等についている印シールを触って自分の場所が分かる。</li></ul>

#### 4 単元目標

- (1) 両手指で正しく点字をたどることができる。
- (2) 清音の点字を読むことができる。

#### 5 指導計画

	授業目標	授業時数
1	半マスだけの文字「ア」「イ」「ニ」「ナ」「ワ」が読める。	3時間
2	半マスに4の点を加えた文字「ウ」「エ」「ネ」「オ」「ヌ」「ノ」「ヤ」「カ」が読める。	10時間（本時）
3	カ行、サ行、タ行、ハ行、マ行、ヤ行、ラ行「ヲ」「ン」が読める。	40時間

#### 6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

主体的な学びとして、道村の「点字導入学習プログラム」を活用し、自分で学習到達度を知ることができ、読めるようになった文字が増えていることを実感できる。本児は50音の構成が分かっているため、様々な点字指導法の中でも、本人の学習進度に合わせられる道村のプログラムを活用する。

対話的な学びとしては、他者と学びを共有することを大切にしたい。点字を学んでいる他児と学習状況の報告、共有、又は家族やクラスメイト、他の教員への学習したことの報告などで、自分の感じたことと文字とが強く結びつくことになると思われる。

深い学びとしては、児童が自分で点字の構成に気づけるようにしたい。新出の点字を覚える際には、児童の感じた形や他の点字との共通点などを話す場面を設ける。児童の考えに共感し、学習の中でも、児童の言葉を使って文字と結び付けていく。また、習得した点字を様々な場面で利用することも深い学びになる。様々なジャンルの本を読む、他の学習場面にも活用し、学習の理解を深めていく。本児の願いの1つである、「お世話になった方に感謝の手紙を打って伝える」ことも実現する。

#### 7 本時の学習

##### (1) 目標

- ・新しい点字の構成を捉える（知識及び技能）
- ・既習文字「ナ」「ヤ」と新出文字「カ」の違いに気づく（思考力、判断力、表現力等）
- ・進んで点字を触ろうとしている（学びに向かう力、人間性等）

##### (2) 展開

配時	学習内容（児童の活動）	指導上の留意点	備考
1分	1 あいさつをする。		
8分	2 プログラムの6ページ目を読み、「カ」の点字を覚える。 ・指の腹で点字に優しく触れて読む感覚をつかむ。  ・「カ」の点字の構成を捉える。左半マス、右半マスがそれぞれ上中下のどの点かを捉える。始めは右手で読み、点字の構成を捉えた後、左の手で読む。	・指の置き方は、行に沿って4本の指が並ぶ形になるようにする。やさしく触れて読む感覚をつかめるよう、教員が児童の指を持って点字上を真横に移動する。 ・指の傾きと平行移動に注意し、指を上下に動かさないことにも留意する。 ・どの点で構成されているか、児童自身の感じ方を言葉で表現させ、点字の構成を意識できるようにする。 ・左右どちらの手でも同じように読めるようにする。どちらかが優位にならないようにする。	・点字導入学習プログラム  ・新出の点字を触って感じたことを言葉で表せるようにする。

10分	3 「ナ」「ヤ」「カ」を区別し、読み分ける。最初に触る点と次に触る点について、言葉で覚えたことと指で感じたことが一致できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が児童の指を持ち、点字上を真横に移動し、「ナ」「ヤ」「カ」の構成の違いを感じるができるようにする。違いについて言葉で表現する。</li> <li>・迷っている際には、上下どちらの点が先に触れるか、それとも同時かを聞く。</li> </ul>	
12分	4 今まで学習した文字から構成された2文字の単語を読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1文字目と2文字目の間が空いておらず読みにくいため、何度も触らせて点字を捉えられるようにする。</li> <li>・字を忘れている際は、左半マスと右半マスの構成を聞き、形が捉えられているか確認し、読み方を再度伝える。</li> </ul>	
10分	5 絵本の読み聞かせを聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保有視力を使い、絵を見やすいようにする。</li> <li>・読み終わった後に感想やお気に入りのシーンを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語への興味を引き出し、読むことに喜びを見出すようにする。</li> </ul> <p>絵本「はらぺこあおむし」</p>
3分	6 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で学んだことを振り返り、評価をする。</li> </ul>	
1分	7 あいさつをする。		

## 8 本時の評価

### (1) 児童の学習評価

- ・新しい点字の構成を捉えることができたか。(知識・技能)
- ・既習文字「ナ」「ヤ」と新出文字「カ」の違いに気づき、読み分けられていたか。(思考・判断・表現)
- ・進んで点字を触ろうとしていたか。(主体的に学習に取り組む態度)

### (2) 教師の指導の評価

#### ア 授業構成(指導手順、時間配当、指導形態等)について

- ・見通しをもって、意欲的に学べる授業構成であったか(主体的な学び)
- ・児童の考えを引き出し、共感することができていたか(対話的な学び)
- ・授業で学んだことを次の授業で定着している様子が見られたか(深い学び)

#### イ 教師による支援(環境設定、教材教具の工夫等)について

- ・教材を十分に活用できていたか(主体的な学び)
- ・児童が活動の中で発言しやすい場面を設定できたか(対話的な学び)
- ・既習文字「ナ」「ヤ」と新出文字「カ」の違いや共通点に児童が気づけるよう、働きかけができていたか(深い学び)

#### ウ 自由記述(授業について気付いたことがありましたら記入の上、提出してください。)

## 9 準備物、参考文献

〈道村静江、点字学習導入プログラム、国際浮出印刷株式会社、2002〉

1 教育支援プランA（個別の教育支援計画）

特別な教育的ニーズ	対象生徒は、未熟児網膜症による視覚障害があり、左目の視力は0.1で視野が極めて狭く、右目は光覚なしという状況である。従って、①学習や活動の場面で、見やすい教材の提示の工夫と補助具（弱視レンズ）の活用などを図ること、②安全に歩くための基本的な歩行技術の習得などの支援が必要である。 支援に当たっては、軽度の知的障害があり、学習面でのつまずきや周囲とのコミュニケーションに難しさを感じることも多いことにも配慮して、①見えにくさに気づき、自分から進んで弱視レンズを活用しながら見える楽しさや喜びを実感できるようにすること、②白杖を使って一人で安全に歩く力や困っている時に周囲に支援を求められるようなコミュニケーションの力を身につけることが必要である。		
本人・保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で見えにくさを補うための工夫ができるようになってほしい。</li> <li>・将来の自立や就労に向けて、できることを増やしてほしい。</li> <li>・困った時など、周囲の人に支援を頼めるようになってほしい。</li> </ul>		
合理的配慮の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見えにくさを補うことができるようにするための指導を行う（生活や学習での見えにくさに気づき、必要に応じて自分から弱視レンズ等の補助具を活用できるようにする）</li> </ul>		
教育機関の支援	目標・機関名	支援内容	評価
	所属校 埼玉一学園 ・自分で見えにくさを補うための工夫ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見えにくさに応じた教材及び情報の提示を行う。</li> <li>・弱視レンズの使い方を覚え、積極的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弱視レンズの使い方を覚え、見えにくさに応じて、弱視レンズを自ら用意して活用できるようになった。</li> </ul>

2 教育支援プランB（個別の指導計画）

指導方針	現在、自ら弱視レンズを活用して見えにくさを補えるようになってきたものの、活用の機会は一部の学習に限られている。見えにくさが学習のつまずきの原因の一つになっていると考えられるので、今後は、弱視レンズの活用を広げながら、見る力をさらに伸ばすように支援と指導の工夫を行う。		
指導に結びつく実態			
1 健康の保持	・食事や着替えなどは、ほぼ自立している。		
2 心理的な安定	・周囲がざわついていると、注意が逸れてしまうことがある。		
3 人間関係の形成	・集団への参加はできるが、自ら周囲と関わろうとしない。		
4 環境の把握	・見えにくさに応じて弱視レンズを使うことができる。		
5 身体の動き	・手指の細かい操作が難しい。		
6 コミュニケーション	・分からないことや困っていることを周囲に伝えられない。		
教科・領域等	学習課題・目標	指導内容・方法（手だて）	評価
自立活動	弱視レンズの活用	手持ちルーペ、単眼鏡の活用場面を広げる。	見えにくい場面で手持ちルーペや単眼鏡を積極的に使えるようになった。

3 年間指導計画

月	単元名（題材名）	授業時数	授業目標	評価
4月	作業学習（紙すき）	6時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙すきの作業内容を知り、授業の見通しをもつ。</li> <li>・各作業工程における作業内容や手順を教員と一緒に体験しながら和紙を製作できる。</li> </ul>	・紙すきの作業手順を覚えることができた。
5月	作業学習（紙すき）	8時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の準備や片付けに取り組むことができる。</li> <li>・各作業工程における作業を覚え、道具の操作などを自分でいながら和紙を製作できる。</li> </ul>	・一人で和紙を製作できるようになった。

## 4 ポイントを絞った指導案

中学部 2 年生 作業学習 学習指導案

日 時 令和〇〇年〇月〇日 (〇)  
第〇・〇校時 : ~ :  
場 所 〇〇室  
指導者 〇〇〇〇 (T 1)  
〇〇〇〇 (T 2)

### 1 単元名 「作業学習」

### 2 単元設定の理由

#### (1) 生徒観

本グループは、全盲が 1 名、弱視 3 名の生徒で構成されている。着替えや食事等の日常生活面については次の活動を知らせる声かけ程度で行うことができる。普通文字（墨字）の読み書きや日常的な言葉でのコミュニケーションができる生徒が 1 名、言葉で簡単な気持ちのやり取りができる生徒が 2 名、発語はないが、簡単な身振りサインでの要求や写真カードによる指示で行動できる生徒が 1 名である。

#### (2) 単元観

本学習は、木工や栽培等、生徒の将来の就労に向けた学習を行う。生徒に応じた学習内容や支援について日々工夫しながら、3 年間の学習を組み立てる。点字用紙のリサイクルによる紙すき作業は、視覚障害のある生徒においては、触る作業が多く、効果的な学習活動である。特に、和紙の材料となる点字用紙は、紙の凹凸によって、生徒が点字用紙の回収作業をする際にも分かりやすく、リサイクルの過程でも紙のミシン目を切り離したり、細くちぎったりなど生徒の実態に応じて作業の内容を変更できる。生徒が製作した紙すき作品は、本校の文化祭において毎年、来校者から高い関心を集めており、生徒が意欲的に作業に取り組むきっかけにもなっている。



#### (3) 指導観

本学習では、全盲や弱視など生徒の見え方に配慮しながら、生徒が意欲的に作業に取り組むことができる指導・支援を工夫している。本単元では、5 つの作業工程を経て 1 枚の和紙を完成させる。紙すきの作業に当たっては、次の 2 つの視点を大切にしている。

##### ① 生徒の力を引き出すための支援の工夫

生徒が、作業の手順に見通しをもち、主体的に作業に取り組むことができるよう、生徒の課題を把握し、声かけや手のガイドなど、生徒の力を最大限に引き出すように工夫する。

##### ② 安心・安全な作業環境作り

作業が円滑に進むよう、全盲や弱視の生徒が作業機の間を安全に移動できる動線の確保、視覚的な作業の難しさを補うための補助具の工夫と活用など、生徒が安心して作業に取り組める環境を作る。

以上のことをそれぞれの生徒が、自分の課題が分かり、その克服に向けて、可能な限り自分の力で作業を行うことで、自分の役割を果たす達成感や将来に向けた働く意欲を育てて行きたい。

### 3 抽出児童生徒の実態

氏名（記号）	単元（題材）にかかわる実態	合理的配慮の実施内容
A	手指の巧緻性が高まりつつある。	課題に応じた手指の使い方を丁寧に指導する。

### 4 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

視覚障害のある生徒の作業学習においては、全盲や弱視など、生徒の見え方によって、作業内容や手順の理解・材料や道具の取扱い・作業場所の空間把握など、作業を安全かつ円滑に行う上で様々な課題がある。本単元では、視覚障害のある生徒が自分の力を発揮できるよう、保有する視機能を最大限に生

かす工夫や触覚や聴覚などの感覚を活用できる力を高める課題設定を行うことを主体的・対話的で深い学びの実現に向けた主たる視点とした。

(1) 主体的な学び

主体的な学びを実現するためには、生徒の視覚の特性に配慮しながら、一人一人が自分の力を発揮し、作業を成し遂げた達成感を得られる場面を作り出すことが必要である。その指導に当たっては、見えにくい場面で弱視レンズなどの視覚補助具を活用すること、触覚を積極的に活用しながら材料や道具などを扱えるようになること、聴覚によって周囲の状況を把握し、作業に必要な情報を得ることなど視覚・触覚・聴覚を有効に活用するための支援の工夫が不可欠である。その手立ての一つである作業環境の設定では、机や道具の配置の工夫によって作業手順や工程を分かりやすくすること、補助具を活用して道具の安全性や操作性を高めること、視覚的な情報を音声で伝える機器の活用などを通して、生徒が自分自身で考え、判断しながら主体的に作業に取り組めるようにしたいと考える。

(2) 対話的な学び

生徒は、視覚障害の状態によって、生活や学習を行う上で必要な情報の獲得を聴覚から得られる音声などに依存することが多い。そのため紙すき作業では、生徒に材料の変化の様子や道具の取扱い方など作業の進行に際して、視覚や触覚で得られない情報を言葉で分かりやすく説明しながら生徒と教員の間で作業のイメージを共有できるようにすることが大切である。また、生徒が同じ場所で作業を行う人の存在を意識しながら集団の中で他者と協力して作業に取り組む意欲や態度を育てるために、生徒同士で教え合うこと、それぞれの生徒のコミュニケーション手段で教員とのやり取りができることなど作業を進めるうえで必要なコミュニケーションを行えることが大切である。

(3) 深い学び

本単元は、点字用紙のリサイクルによる和紙作りを題材にした製作活動を主とする作業である。視覚に障害のある生徒は、材料や道具などを活用しながらイメージを形として作り出す経験が少ない傾向がある。特に和紙を作る過程では、道具の活用とともに、計数・計量、時間意識、空間把握など他の授業で学んだ知識や技能を総合的に結び付けながら作業に取り組むことが求められる。本単元では、作り出すことの楽しさや喜びを実感することで働くことに関心を持つなど生徒の内面的な成長を促し、一連の作業で身に付けた力を中学部卒業後の学習、さらには、将来の生活の自立や社会参加に向けた一助として役立てたいと考える。

5 本時の学習

(1) 共通目標

- ① 紙すきの一連の作業工程に見通しを持ち、主体的に行動しながら和紙を作ることができる。
- ② 各作業工程における作業の手順を覚え、材料や道具を正しく扱いながら目的の作業ができる。

(2) 個人目標（生徒 A）

- ① 計りの表示など見えにくいものを、弱視レンズで確認することができる。
- ② 材料や道具の取扱いに慣れ、一つ一つの作業を正しく丁寧に行うことができる。

(3) 展開

配時	学習内容 (児童生徒の活動)	指導・支援の手立て及び指導上の配慮事項 ○教員の指導 ※指導の意図（ねらい）	備考
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ</li> <li>・作業学習の歌</li> <li>・本時の説明</li>   <li>・身支度と道具の準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※歌に合わせて楽しく手指を動かしながら学習の始まりを意識する。</li> <li>○本時の内容と目標を確認する。</li> <li>※各生徒の目標を確認し、作業への意欲を高める。</li> <li>○身支度。</li> <li>※必要に応じてエプロンの付け方や紐の結び方を支援し、身だしなみを確認する。</li> <li>○机の配置・道具の準備・環境把握。</li> <li>※机を紙すき作業の形態に配置し、準備室か</li> </ul>	

25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙すき作業 (作業工程①～⑤の順で、一人1枚和紙を作る。)</li> </ul>	<p>ら道具と材料を運んでそれぞれの机に設置する。生徒と机や道具の位置などを確認しながら教室の環境把握を行う。</p> <p style="text-align: center;">《作業工程》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>紙ちぎり 点字用紙を小さくちぎる。</li> <li>計り ちぎった点字用紙をデジタル音声計りで規定の量を計る。</li> <li>ミキサー ミキサーに点字用紙と色紙を入れ、水と混ぜ合わせる。</li> <li>紙すき 紙すき用の枠にミキサー内の水を流し込んで紙をすく。</li> <li>仕上げ タオルに和紙をはさみ、ローラーをかけ仕上げる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計り (工程②) ルーペを使って計りの表示を読む。</li> </ul> 
15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙すき作業 (作業工程①～⑤の順で、一人1枚和紙を作る。)</li> </ul>	<p>○生徒の取組の様子を見ながら、材料や道具の取扱いなどの支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計りの表示など見えにくい場面でルーペを使って見ることができる。(A)</li> <li>分からないことがあれば、教員に聞くことができる。(A)</li> </ul> <p>※生徒が可能な限り一人で取り組めるように配慮する。</p>	<p>○色の選択 (行程③) 引き出しの位置で、色紙の色を伝える。</p> 
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>道具の片付けと清掃</li> <li>反省</li> <li>あいさつ</li> </ul>	<p>○道具の整理・整頓や清掃の仕方を支援する。道具と材料を準備室に運ぶ。</p> <p>○全員が感想発表できるようにし、成果や課題を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業を振り返りながら、自分の気持ちを表現することができる。(A)</li> </ul> <p>○製作した和紙の枚数を生徒と一緒に確認し、次回の目標を伝える。</p>	

## 6 本時の評価

### (1) 児童生徒の学習評価

- 紙すきの作業手順や道具の使い方を覚えて、和紙を完成させることができたか。(知識・技能)  
5つの作業工程における作業内容や手順が分かり(知識)、それぞれの工程での道具・補助具の活用や材料の取扱いができる(技能)ようになったかなどを評価する。
- 他の授業などで身につけた知識や技能を総合的に生かしながら作業に取り組むことができたか。(思考・判断・表現)  
計数・計量・時間の把握・移動・コミュニケーションなど、自分で考え、判断し、表現するなどの様子进行评估する。
- 視覚や触覚など、保有する感覚を活用した空間把握を行いながら意欲的に作業に取り組めたか。(主体的に学習に取り組む態度)  
弱視レンズなどの視覚補助具や触覚・聴覚など保有する感覚を生かしながら空間把握を行おうとする態度や、一連の作業に意欲的に取り組んでいたかを評価する。

(2) 教師の授業評価（学習環境や教材教具等についての評価を含む）

ア 授業構成（指導手順、時間配当、指導形態等）について

- ・生徒の主体的な学びに向け、作業の内容理解や手順に見通しをもつための視覚的支援や声かけを工夫できたか、生徒の力を引き出すために一人一人の作業の課題を教員間で共有しながら指導・支援に取り組むことができたか。（主体的な学び）
- ・必要な場面で言葉やサインなど生徒のコミュニケーション手段に応じたやり取りを行いながら、生徒自身で作業の課題を解決できるための支援を行うことができたか。また、認めたり励ましたりする声かけを工夫しながら生徒の意欲を高めることができたか。（対話的な学び）
- ・計数・計量・時間の把握・移動など、他の授業で学んだことを和紙を作る一連の作業の中で役立てる場面が見られたか。（深い学び）

イ 教師による評価（環境設定、教材教具の工夫等）について

- ・生徒が机や道具の配置など作業環境を把握し、各作業工程で道具や補助具を活用しながら作業に取り組んでいたか。（主体的な学び）
- ・生徒が同じ場所で作業する人の存在を意識し、仲間と協力しながら作業に取り組めたり、教師に作業で分からないことを聞こうとしたりする態度が見られたか。（対話的な学び）
- ・生徒にとって作業で身に付けた力を中学部卒業後の学習、さらには、将来の生活の自立や社会参加につながる内容で学習計画を設定できたか、また、作り出すことの楽しさや喜びを実感することで働くことに興味を持つなど生徒の内面的な成長を促す指導や支援ができたか。（深い学び）

(3) 自由記述（授業について気づいたことがありましたら記入の上、T1に提出してください。）

7 備考

教室内配置図 座席配置図 作業用道具配置図等